

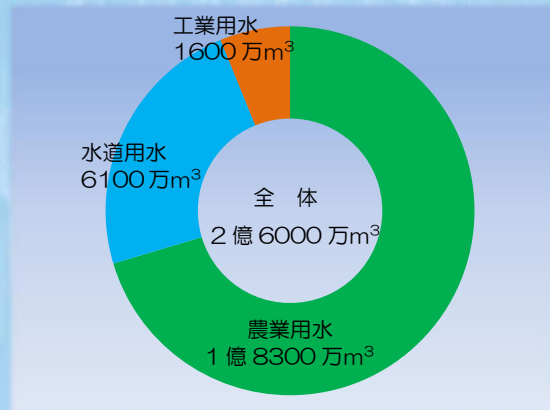
東三河地域の発展

～ 豊川用水のおかげだね! ～

○東三河地域の発展と豊川用水

豊川用水は昭和43年の全面通水から水を安定的に供給し、東三河地域の発展に大きく貢献してきました。豊川用水は農業と水道、工業用水として使われており、1年間に使われる水の量は、全体が約2億6,000万m³で、そのうちの約70%が農業用水、約24%が水道用水、約6%が工業用水として使われています。

今回は、東三河地域の発展と豊川用水との関わりを、農業用水、水道用水、工業用水の分野ごとに紹介します。



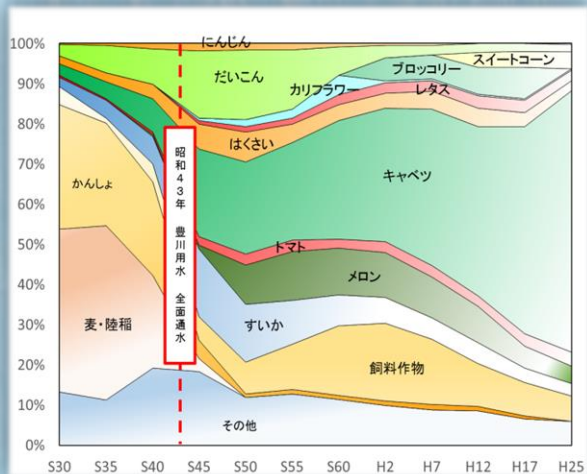
1年間に使われる豊川用水の量(H27)

出典：独立行政法人水資源機構豊川用水総合事業部
<http://www.water.go.jp/chubu/toyokawa/>

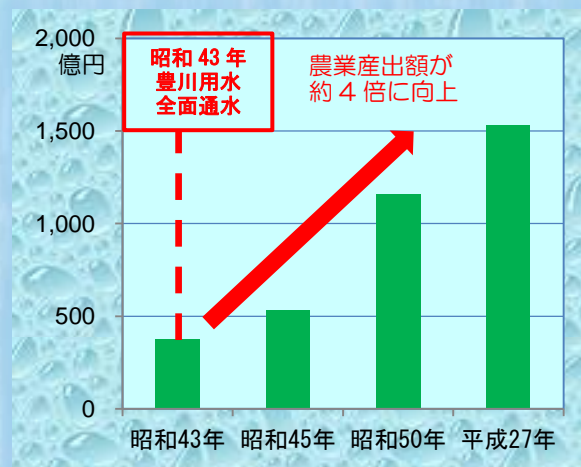
○農業用水

水源となるダムや幹線水路はもちろん、末端の農地まで給水する施設が整備され、年間を通じて安定した用水が得られるようになったため、豊川用水通水後は収益性の高い野菜や果物、施設園芸作物などの作付面積が大幅に増加し、東三河地域は全国屈指の農業が盛んな地域となりました。

*供給区域：豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、静岡県湖西市



高収益作物の増加により



農業産出額の推移（東三河5市）

*豊橋市は、昭和42年から平成16年まで38年連続で全国1位
 平成27年は、田原市が全国1位

作付け構成が大きく変化し、高収益作物が増加



田原市の電照菊



田原市のキャベツ

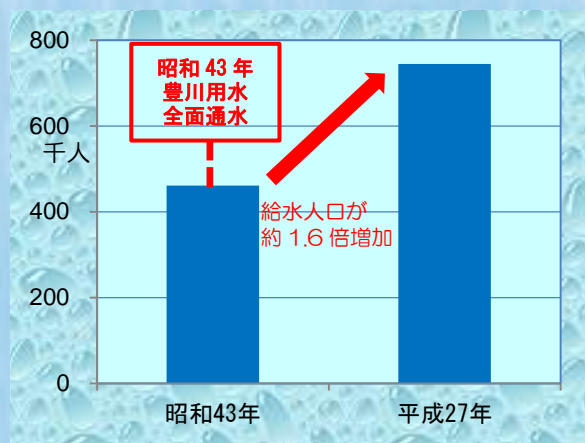


豊橋市のトマト

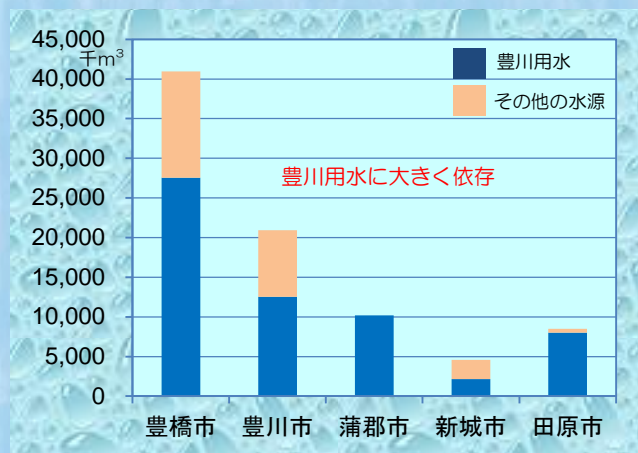
○水道用水

東三河地域は、産業の発展や生活水準の向上などにより給水人口が増加してきましたが、豊川用水通水後、水源に豊川用水が加わり安定して水道を供給できるようになりました。

*供給区域：豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市



給水人口の推移 (東三河5市)



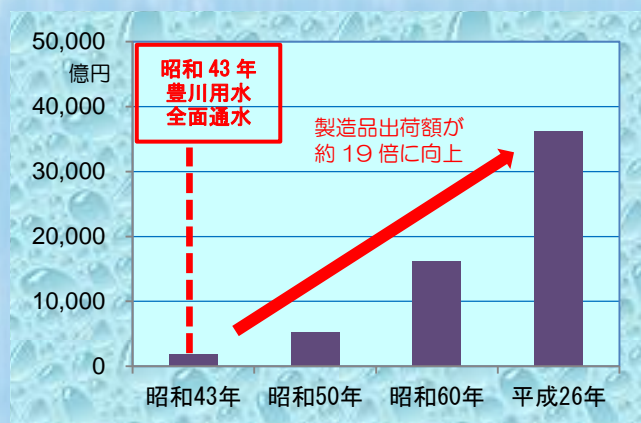
平成27年度水源別年間取水量

○工業用水

東三河地域の工業は、昭和30年代後半に工業整備特別地域に指定されたことや、三河港港湾計画に基づいて臨海工業地帯が整備されたことにより、大型工場が進出し発展してきました。豊川用水は工場で冷却水や、洗浄用水などに利用され、東三河地域の発展を支えてきました。

*供給区域：豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市

静岡県湖西市



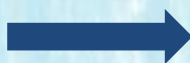
製造品出荷額の推移 (東三河4市)

*愛知県全体では、昭和52年から平成26年まで38年連続で全国第1位です。平成26年の東三河4市の製造品出荷額は愛知県全体の約8%です。



昭和40年の豊橋市明海町。

臨海工業地帯として
発展しました



平成20年の豊橋市明海町

写真出典：国土地理院ウェブサイトの空中写真を加工して作成

○さいごに

通水開始以来、東三河地域の重要なインフラストラクチャーとして機能してきた豊川用水の水路施設ですが、長い年月の経過と共に老朽化が進行してきました。漏水、破損等により万一通水ができなくなる事態が発生すると、東三河地域の生活や産業に甚大な被害が発生してしまうことが想定されます。

じゃあ水路施設は大丈夫？大地震が発生したら？と不安になってしまいますが、安心してください、対策していますよ！次回「**豊川用水二期事業**」で水路施設の改築、地震対策などについてご紹介します。